

職業安定局 雇用開発部  
地域就労支援室長

た なか あゆみ  
**田中 歩**



かけがえのない仕事や  
人との出会いが待っています

## 経歴

昭和63年 労働省入省  
神奈川県・横浜公共職業安定所

平成4年 経済協力開発機構(OECD)事務局 出向

平成6年 職業安定局 障害者雇用対策課  
障害者雇用専門官

平成8年 大臣官房 国際労働課 企画係長

平成9年 大臣官房 海外労働情報室 室長補佐

平成10年 女性局 女性福祉課 課長補佐

平成12年 大分労働局 雇用均等室長

平成14年 雇用・能力開発機構  
雇用支援部 雇用開発課長

平成15年 雇用・能力開発機構  
キャリア形成支援部 調査役

平成16年 職業能力開発局 能力開発課 課長補佐

平成17年 職業安定局 障害者雇用対策課 課長補佐

平成18年 宮城労働局 職業安定部長

平成20年 労働大学校 准教授

平成21年 大阪労働局 需給調整事業部長

平成23年 職業能力開発局  
実習併用職業訓練推進室長

平成24年 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構  
雇用開発推進部長

平成28年 現職

## 職業安定局 障害者雇用対策課 障害者雇用専門官

### 障害者雇用対策担当のスタート地点

知的障害及び精神障害者に係る施策立案を担当しました。当時は、ハローワークにおける精神障害者担当の職業相談員の配置が始まった頃で、全国の相談員を集めた研修を企画、実施しました。現在は老舗と言わなければならない精神障害者の就労支援機関の方々が相談員として活躍されており、就労支援の現場での実践を見学したこと等をヒントに、グループワークを活用してハローワークが精神障害者に就職支援ノウハウを提供する事業を立ち上げました。

このほか、障害者団体の方々と協力して知的障害の当事者向けの職業的自立支援マニュアルを作成したり、就労支援に熱心な精神科医や大学の先生などの研究会に参加し、課の事業としては初めて精神障害者の雇用管理マニュアルの作成にかかわったりしました。

思い出すと恥ずかしくなるような失敗が多々ありましたが、障害者雇用を取り巻く多くの関係者の方々と仕事をする経験によって、資料を読んだだけではわからない現実の大変さや、現場を見て関係者の話を聞くことの大切さを学び、大きな財産となりました。その後、17年度に課長補佐、そして28年度に室長として障害者雇用対策にかかわっていますが、そのスタート地点となった時期でした。

## 女性局 女性福祉課 課長補佐

### 行政官としてのフルコースを経験

企画担当の課長補佐として、仕事と育児・介護の両立支援対策を担当しました。これまでは国際労働課の企画係長として省内の国際関連の窓口となったことはあったものの、補佐としての経験も浅く、企画補佐という肩書きを非常に重く感じたことを覚えています。

こちらでは、局全体の業務の連絡調整役である総務課から日々降りてくる事業の調整業務や、国会議員の質疑対応等の国会業務、今後の施策の方向性をまとめる研究会の運営、事業の予算要求業務等の行政官としてのフルコースをたっぷり経験することができました。密度の濃い毎日の中で行政官としての基本を鍛えられたという実感があります。

また、印象が強い出来事としては、ニューヨークの国連本部での国連婦人の地位委員会に労働省から一人、政府代表団に参加したこと。先進国から途上国までそれぞれに女性をめぐる異なる状況がある中で、女性の地位向上をいかに図っていくべきか世界レベルの議論の場に立ち会っていることに感激しました。

## 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 雇用開発推進部長 管理者として難局を乗り切る

担当した業務の中で印象に残っているのは、アビリンピック(全国障害者技能競技大会)の開催です。通常は共催県があるのですが、担当2年目の平成25年に限って共催県がなく、すべてを自前で開催しなければなりません。

総務部と体制の増員や開催経費の問題について協議することから始まり、日々の進捗状況に気を使う毎日でした。20数種の競技種目それぞれの関係者や選手を派遣する都道府県との連絡調整等、調整先が多く、大小のトラブルもいろいろと起きる中、管理職として素早かつ確かな判断を求められる場面も多々ありました。また、当日の集客が心配でしたが、職員とともに思いつく限りの周知の方策を考え、結果として、当日、2万人を超える方が来場し、障害のある選手が真剣に技能を競い合う姿をご覧いただくことができ、うれしさがこみ上がりました。

このような事業は、うまく進む時期もあればトラブルで頭を抱える時期もあり、管理職としての自分の役割をいかに果たしていくかを自問自答しながら職員と率直に向き合い、皆のチームワークで何とか乗り切っていく醍醐味を味わえた経験でした。



仕事がうまくいく秘訣は、  
常に楽しさを見出そうとすることだと思います

経歴

- 昭和60年 労働省入省  
大阪府・布施公共職業安定所
- 昭和61年 雇用職業総合研究所 雇用管理研究部
- 平成元年 職業安定局 民間需給調整事業室  
労働者派遣事業係長
- 平成4年 職業安定局 業務調整課 職業紹介係長
- 平成6年 宮崎県 商工労働部 職業安定課長
- 平成8年 職業能力開発局 民間訓練促進室 室長補佐
- 平成10年 職業安定局 職業意識啓発推進室 室長補佐
- 平成12年 職業安定局 庶務課 課長補佐
- 平成13年 職業安定局 雇用保険課 課長補佐
- 平成16年 職業安定局 農山村雇用対策室 室長
- 平成17年 職業安定局 高齢・障害者雇用対策部  
高齢者雇用対策課 高齢者能力活用企画官
- 平成19年 愛知労働局 職業安定部長
- 平成20年 高齢・障害者雇用支援機構 納付金部長
- 平成23年 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構  
職業リハビリテーション部長
- 平成24年 職業安定局 派遣・有期労働対策部  
求職者支援室 室長
- 平成25年 職業安定局 首席職業指導官
- 平成27年 現職

職業安定局 業務調整課 職業紹介係長

よりよいハローワークの  
職業相談・紹介サービスを目指して

日中は、全国各地のハローワーク利用者から様々なご意見の電話が間断なくかかってきました。加えて、外資系企業などで「リストラ」が始まりつつあり、雇用問題としての「リストラ」が日本で広く認識されるようになったのは、この頃からだと思えます。こうしたことから、職業紹介係の業務も非常に多忙でした。

また当時、ハローワーク内のレイアウトの見直しも含めた業務改善の取り組みが進められており、その成果を踏まえて、職業相談・紹介業務のバイブルとも言える「一般職業紹介業務取扱要領」の大幅改正を担当しました。在職中の求職者への相談方法の具体化など、一字一句を吟味し、関係職員の見解を聞いて、再び考え直すという作業が続き、かなり苦しい面もありました。ですが、やっと全体がとりまとまったときには、以降のハローワークの方向性を大きく左右するものであるだけに、非常な達成感を覚えました。当時の課長から、「君は、なかなか粘り強いね。」とポツリと言われたことも強く印象に残っています。

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構  
職業リハビリテーション部長

専門性を磨く

全国47の地域障害者職業センターでは、高い専門性を身につけた障害者職業カウンセラーが障害のある方々の就職や職場適応などを支援しています。カウンセラーの職務は、障害のある方々一人ひとりの状況を見極め、それに応じてきめ細かく対応していくという、ある意味たいへん地道なものです。そうした職務を統括する部長となって、まず感銘を受けたのは、カウンセラーの皆さんが、いかに仕事を自分の努力や考え方に成果が左右されるものとしてとらえ、真摯に取り組んでいるかということでした。機構本部の職業リハビリテーション部にも事務職とともにカウンセラーが多く配置され、皆が意欲と活気に溢れた仕事ぶり、私もワクワクしながら毎日を過ごしていました。

また、その頃は、精神障害や発達障害のある方々に対する支援件数が急速に増えてきた時期であり、新たな支援技法の開発や、第一線における実践・工夫についての経験交流・集約の取り組みが進められていました。そうした中、私自身、様々な角度から精神障害や発達障害について研鑽を積む機会を得たことも、たいへん貴重な経験でした。

静岡労働局 労働局長

都道府県労働局長の3つの顔

労働局長の役割として主に3つの顔があると思っています。一つは、対外的な労働局の代表としての顔です。毎月、雇用情勢などについて定例記者会見を行っており、いろいろなイベントにも出ているので、テレビや新聞記事の写真に写っていることも少なくなく、街を歩くとき少し緊張します。自治体の首長や労使団体の方々、企業経営者等と面談する機会も多く、不得意としている世間話も少しはできるようになりました。

2つ目は、労働基準・職業安定・雇用均等・職業能力開発の4行政のコンダクター役としての顔です。それぞれ、行政手法がかなり違っており、ともするとバラバラに動きそうですが、結局、目指すところは同じで、「希望する誰もが、安心して活き活きと働ける社会の実現」だと考えています。それに向かって、いかに総合力を発揮できるようにしていくかが、工夫のしどころ、腕の見せ所です。

もう一つは、職場の環境整備を担う縁の下の力持ちな顔です。環境整備といっても、設備や業務体制を整えるだけではなく、自由闊達に議論ができ、創意工夫を尊ぶ組織風土をいかに強化していくか等も大切です。そのためには、自分のこれまでの職業経験を総動員する必要があると、今思っています。